

# トリと環境の科学

【日 時】平成27年 **10月24日** ⊕ 12:45~16:20 (受付12:00)

【場 所】河合塾岐阜校 7階71教室 【対象者】一般・高校生

連合農学研究科では、「トリと環境の科学」をテーマに、構成大学である静岡大学の協力を得て公開講座を行います。岐阜を含む中部地方は古くから日本の養鶏産業の中心であり、また岐阜には長良川の鶺鴒が歴史ある文化財として継承されています。そこで本講座では、ユニークで多様なニワトリの品種と保全、品質の良い卵を産ませるための環境要因などについて述べた上で、鷹狩りなどを例に伝統文化と環境の保護との狭間に潜む問題について科学的に講演いたします。

## 挨拶 12:45~13:00

千家 正照：大学院連合農学研究科長

## 第1部 日本のニワトリ - 観賞用から遺伝資源まで - 13:00~14:00

【講 師】只野 亮：岐阜大学応用生物科学部 助教

日本には、独自に品種改良がなされた多くのニワトリの品種があります。私たち日本人は、ニワトリを姿や鳴き声を楽しむための観賞用として長い年月をかけて改良し、多様な品種を作り出してきました。近年では、これらの品種の一部が地鶏肉の生産などに利用されており、遺伝資源としての重要性も増してきています。本講座では、日本のユニークなニワトリの品種を紹介しながら、動物生産(畜産)において遺伝的多様性を保全することの意義と重要性について解説します。

## 第2部 ニワトリの換羽と卵のサイエンス 14:10~15:10

【講 師】山本 朱美：岐阜大学応用生物科学部 准教授

孵化したばかりの鳥類はふわふわとした羽毛に覆われています。しばらくすると立派な羽に抜けかわり、その後は年に一度換羽します。野鳥は季節に合わせて羽毛を自然に更新することで気象環境に耐えられるようになります。私たちの食卓に上がるテーブルエッグを産むニワトリは季節を知りません。しかし、栄養的な操作で換羽を人為的に誘導すると、品質の良い卵をたくさん産むようになります。この似て非なる換羽について考えてみませんか。

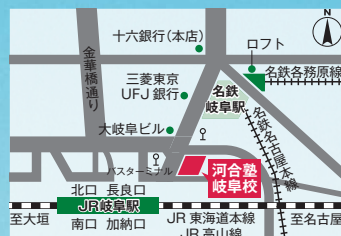
## 第3部 環境の保護か、伝統文化の保護か 15:20~16:20

【講 師】森 誠：静岡大学 名誉教授

古事記や日本書紀に登場するほどの長い歴史をもつ鶺鴒飼いと鷹狩り。明治維新後も手厚く保護され、長良川の鶺鴒飼いは国の重要無形民俗文化財になりました。一方、ユネスコ無形文化遺産となっている鷹狩りの世界11ヵ国に日本は含まれていません。日本産の鷹が捕獲も飼育も禁止されているからです。どちらも大切な伝統文化ですが、鷹狩りの存続は危うくなっています。鶺鴒の鳴き合わせ消滅の例も紹介しながら、野鳥の飼育について考えます。

### 【岐阜大学大学院連合農学研究科】

岐阜大学と静岡大学で構成する博士課程の大学院で、農学分野を中心に研究・教育活動を行なっています。この講座は、本研究科が中心となり、構成大学の岐阜大学応用生物科学部、静岡大学大学院総合科学技術研究科の協力を得て行ないます。



申込不要  
**入場無料**  
テーマ毎の  
参加OK

